

TFU **実学臨床研究** セミナー

認知症の人と家族の 一体的支援

資料集

と き 2022年 5月 20日（金） 18時 30分～20時

ところ Zoom によるオンライン開催

主 催 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

目次

1. 第9回セミナーの趣旨とプログラム	3
2. 講演「認知症の人と家族の一体的支援」 矢吹 知之 氏 (東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 准教授)	4
3. 【資料①】第10回TFU実学臨床研究セミナー案内(チラシ)	21
4. 【資料②】東北福祉大学大学院説明会(チラシ)	23
5. 【資料③】TFU実学臨床研究セミナー実行委員名簿	24

奥付

第9回セミナーの趣旨とプログラム

第9回セミナーの趣旨

これまで在宅で介護をする家族と認知症の本人の支援は、それぞれ異なる場面で行われてきました。その背景には、それぞれが抱えることとなる課題が多いということに注目してきたからかもしれません。一体的支援とは、そのような課題に注目するのではなく解決した先に注目するものです。どちらにも偏らない支援の在り方、そして上から目線の支援にならないための方法として「認知症の人と家族の一体的支援プログラム」を2019年から研究開発をし、令和4年度より地域支援事業交付金（認知症総合支援事業）により正式に事業化されました。このプログラムは、ヨーロッパで広く普及している、プログラムを参考にモデル事業を重ねて実装されたものです。今回は、その背景、理念そして実際のプログラムについて紹介します。

開催方法 オンライン開催

プログラム

18:30 開会挨拶 田中 尚（東北福祉大学総合福祉学部 教授）

18:35 **講演** 「認知症の人と家族の一体的支援」

矢吹 知之 氏（東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科 准教授）

◎ 講演者プロフィール

矢吹 知之（やぶき・ともゆき）

東北福祉大学総合福祉学部准教授。認知症介護研究・研修仙台センター研修部長。博士（教育情報学）、修士（社会福祉学）。

2015年からオランダアルツハイマーカフェ創始者バレミーセン氏からの助言のもと、本学ステーションキャンパスにて認知症カフェ「土曜の音楽カフェ♪」を開催、同所にて開催される認知症の人のピアサポート「おれんじドア」の実行委員。

【最近の著書】

『わたしが私であるために』（共著）ワールドプランニング 2022。『認知症の人とあたりまえに生きていく』（編著）中央法規出版 2021。『認知症の人と家族支援ガイドブック』（編著）ワールドプランニング 2021。『地域を変える認知症カフェ企画・運営マニュアル』中央法規 2018。『認知症カフェ読本～知りたいことがわかる Q&A と実践事例～』中央法規出版 2016、ほか。

◎ コーディネータ

石附 敬 氏（東北福祉大学総合福祉学部 准教授）

野田 毅 氏（社会福祉法人東北福祉会せんだんの里総合施設長）

19:30 指定発言と全体討論

20:00 閉会

第9回 TFU実学臨床研究セミナー

認知症の人と家族の一体的支援

1. 違和感から研究へ
2. 研究から実践そして実装へ
3. 一体的支援プログラムとは

矢吹 知之

東北福祉大学総合福祉学部
認知症介護研究・研修仙台センター

1. 違和感から研究へ 身を委ねることで感じる違和感が研究に

家族は家族をなぜ虐待してしまうのか？それは意図せざる結果だったのではないか？

その1 家族と専門職の関係性の近接性へのアプローチは介護負担感軽減になるのではないか？“SOSを出しても良い”関係性が必要ではないか？

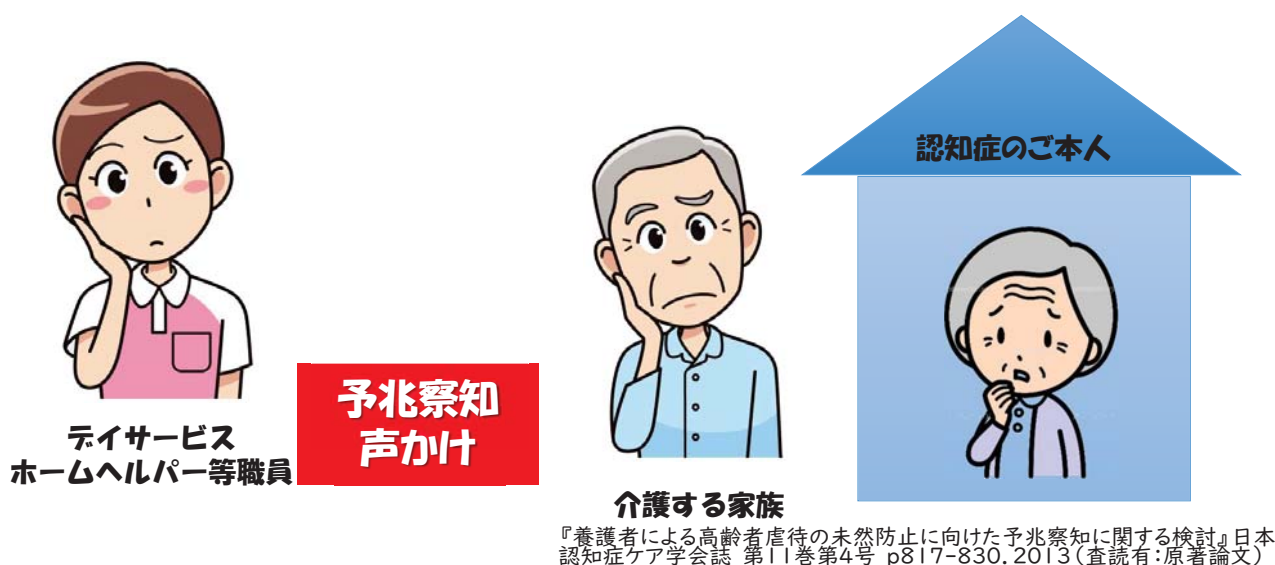


継続的に参加する人には効果があるのだが

平成18年(2006)高齢者虐待防止法施行
介護がペナルティにならないために「予兆察知」

発生前に未然に予防できないか？

その2 最も近くにいる専門職が積極的にアプローチできるのでは？
専門職は、家族の虐待の予兆を察知しているのではないかな？



虐待や不適切なケアの予兆察知の「有・無」

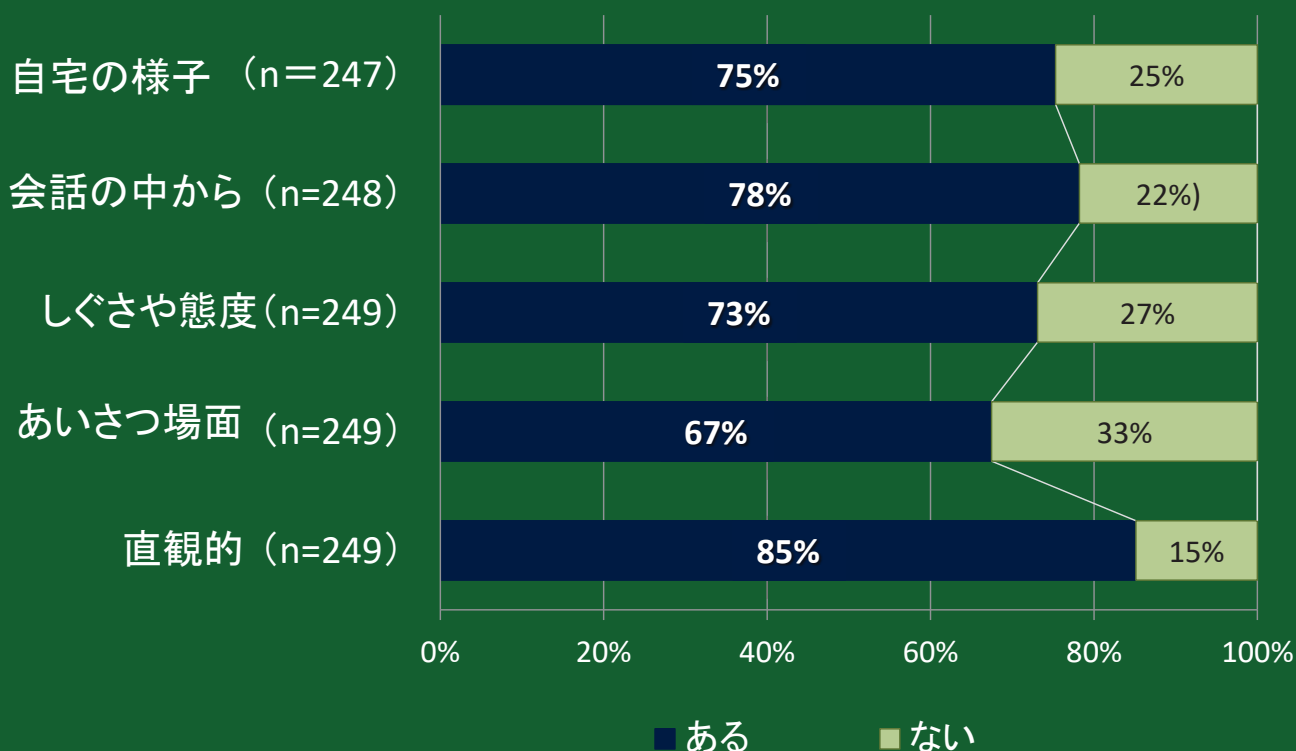
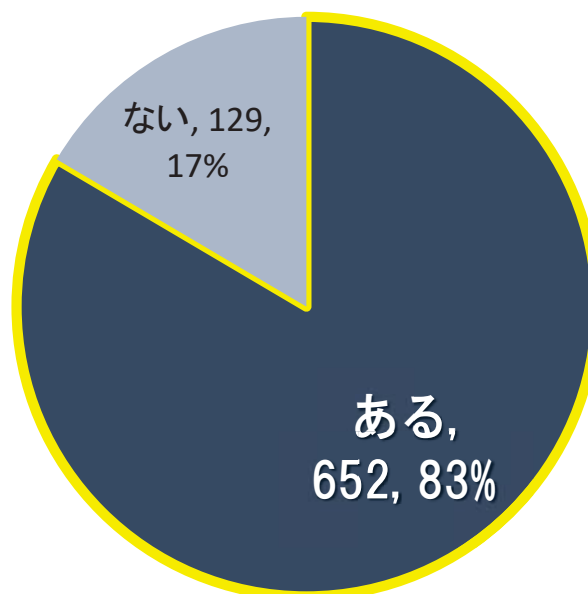


図 訪問時の予兆察知場面(職種による度数分布に有意差なし)

その3 ご家族自身も危機の予兆を感じているのでは？ (エンパワメントへの可能性)

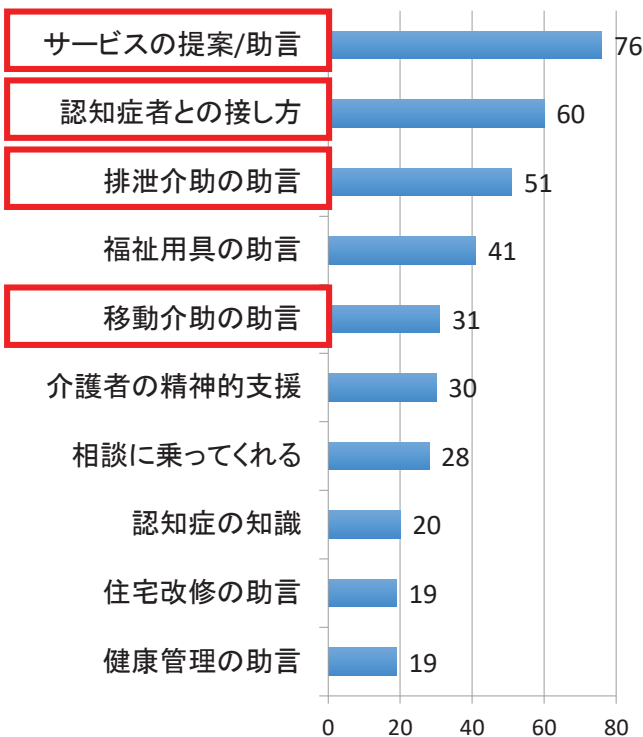
- ①家族介護者の高齢者虐待の蓋然性の自覚
心理的虐待, 身体的虐待, 介護放任・放棄
⇒自ら危機感を感じる「場面と内容」の特徴
- ②家族介護者が望む対応
【言われて助かった助言】
【言われて嬉しかった言葉】
⇒具体的な「声掛け方法と支援方法」

家族介護者が感じる 言われて嬉しかった専門支援者からの言葉

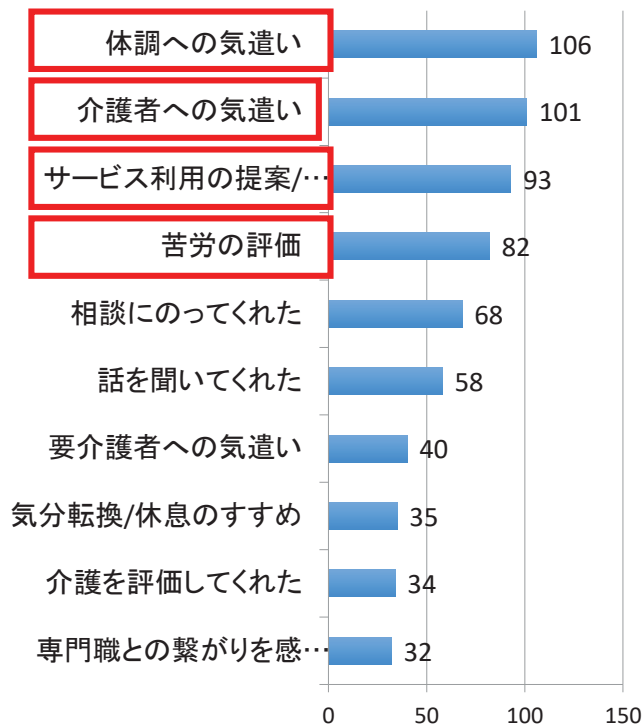


専門職から嬉しかった言葉、役立った助言の有無(n=781)

言われて嬉しい言葉・助かった助言 テキストマイニングによる自由記述からの抽出

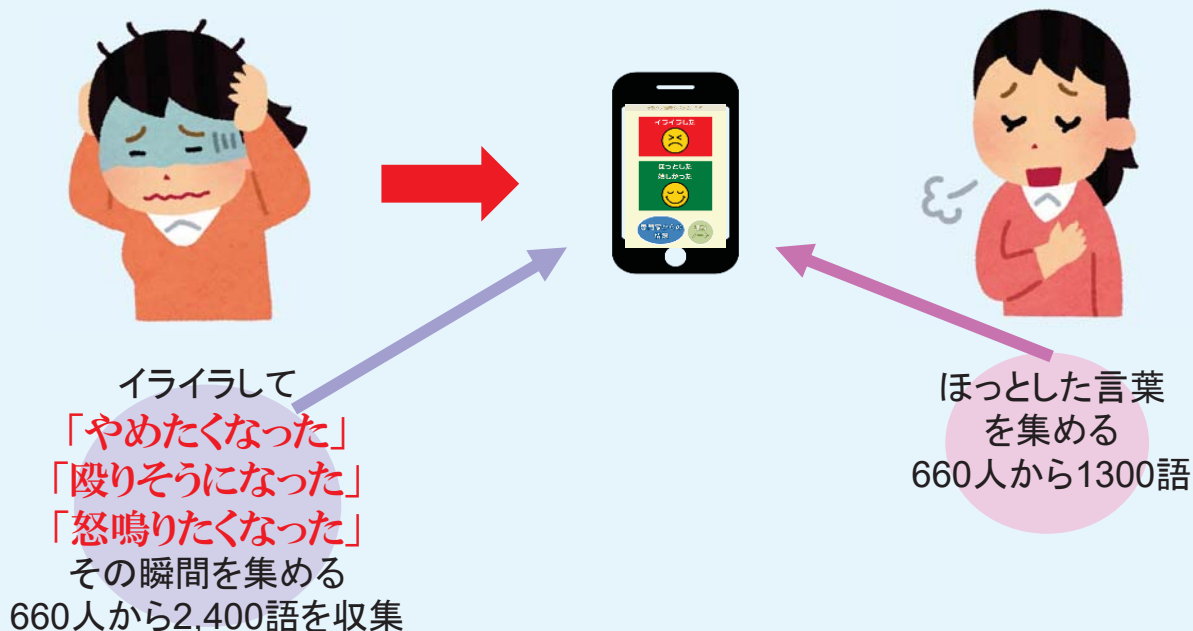


助かった助言上位10(n=723)
550語, 28カテゴリ抽出)



嬉しかった言葉上位10(n=723)
883語, 28カテゴリ抽出)

身近な場面でサポートを ICTの活用





イライラした

家族ケア連絡システム 29

イライラした

ほっとした 嬉しかった

専門家からの情報

連絡ノート

家族ケア連絡システム

取っ組み合いになった

1. 同じことを何度も言う
2. 言うことを聞かなかった
3. 暴言や暴力があった
4. 幻覚、被害妄想、作話があった
5. 介護を拒否した
6. 過剰な要求があった
7. 排泄介助や排せつの失敗があった
8. 助けがない、周囲が理解してくれない
9. 仕事や家事で追われている
10. 夜間、寝ていない
11. その他

家族ケア連絡システム

介護をやめたくなった

1. 排泄介助や排せつの失敗があった
2. 助けがない、周囲が理解してくれない
3. 仕事や家事で追われている
4. 疲れがとれない
5. 暴言、暴力があった
6. 自分自身で介護が難しいと感じた
7. 言うことを聞かない
8. 認知症が進行している
9. 昼夜逆転している
10. 自分自身で介護が難しいと感じた
11. その他

家族ケア連絡システム

取り戻すようになった

1. 暴言や反抗的態度だった
2. 言うことを聞かない
3. 介護拒否された
4. 感謝の言葉がない
5. 不潔な行為をした
6. 排泄介助や排泄の失敗があった
7. 殴られた
8. わがままな発言があった
9. 徘徊で困った
10. 何度も繰り返すことばや行動で
11. その他

家族ケア連絡システム

たまには休んでくださいね

同じことを何度も言う
(コメントを入力できます)

送信

もどる

動画は全35種類、
音声を手書きでも表示



ほっとした、嬉しかった

家族ケア連絡システム 29

イライラした

ほっとした 嬉しかった

専門家からの情報

連絡ノート

家族ケア連絡システム

何でも言うてね

神は、我々を人間にするために、
何らかの欠点を与える。
シェークスピア

ほっとした・嬉しかった
(コメントを入力できます)

送信

もどる

動画種類は5種類

メッセージ種類は31種類

既存のつながりは強化されより多くのサポートを授受

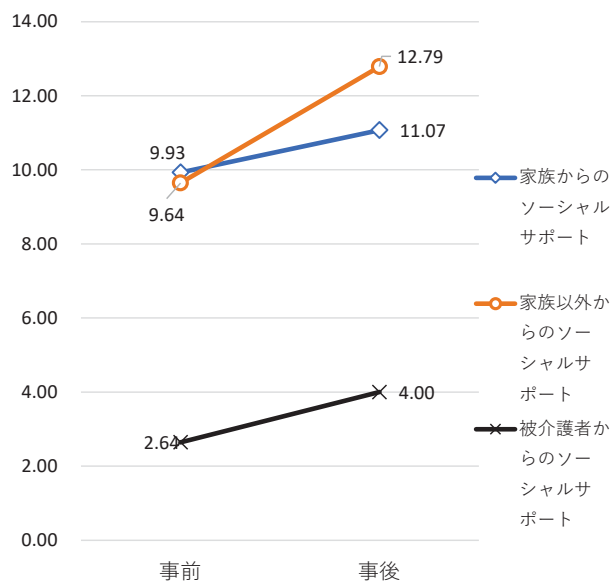


図6-19 家族介護者ソーシャルサポート尺度得点の比較(n=14)

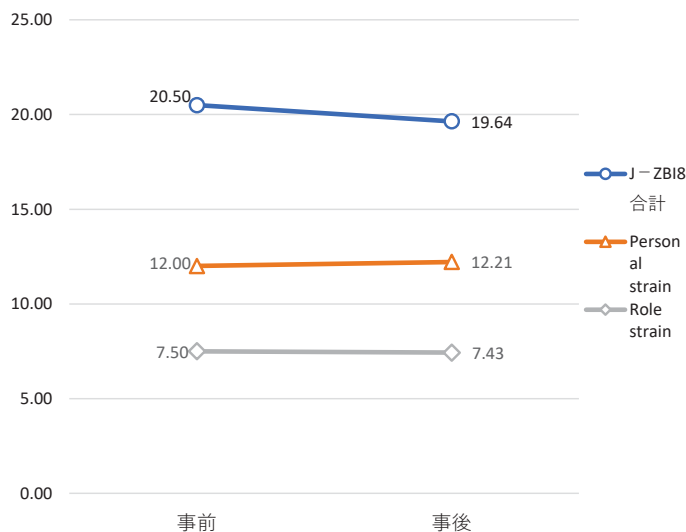


図6-18 J-ZBI8得点の前後比較 (n=14)

介護負担感の軽減にはつながらない

家族以外からのソーシャルサポートや被介護者からのソーシャルサポートは向上

2. 研究から実践そして実装へ

わたし自身の違和感と反省

ご家族の認知症ケア

教育は**家族支援**にも欠かすことができない

例えば、知識がないから虐待をしてしまうということ

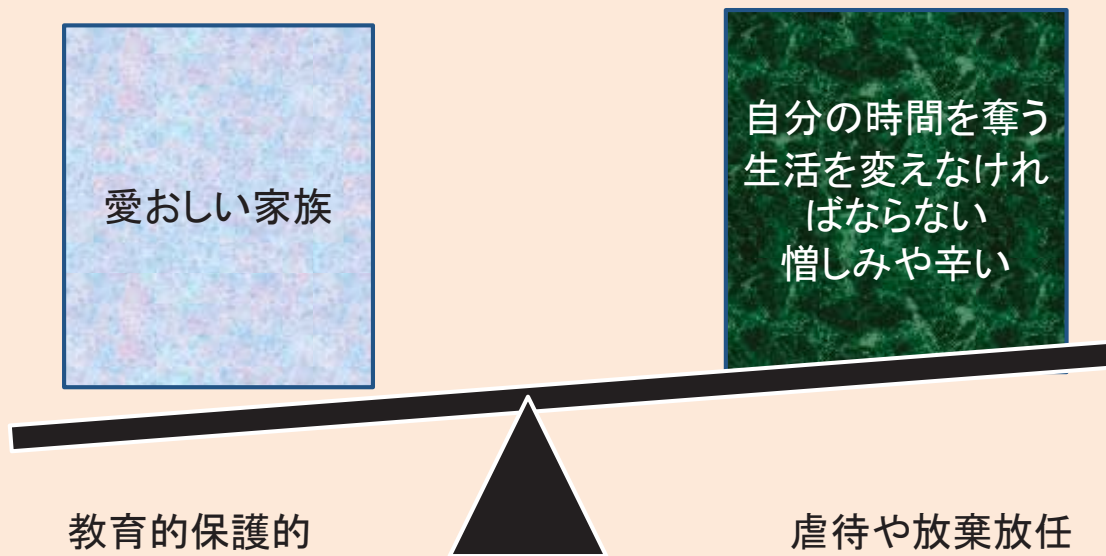
例えば、男性は虐待が多いということ

家族やその人の欠陥として虐待が発生している?!



その個性によってカテゴリーをつくることは、差別や偏見をもたらす

ご家族からの学び、そして反省



「認知症介護は経験してみないとわからない!」の背景

支援者が何かを指導したり変化を求めようとすると、家族は急にやる気を失ってしまったり、こちらが求めることと反対の行動をすることがあります。＝「逆説的な反応」

2つの事実と葛藤

認知症の人は自分の病気をわかっている。
しかし、周囲には何もわからない人だと思われている。

【脱人格化】

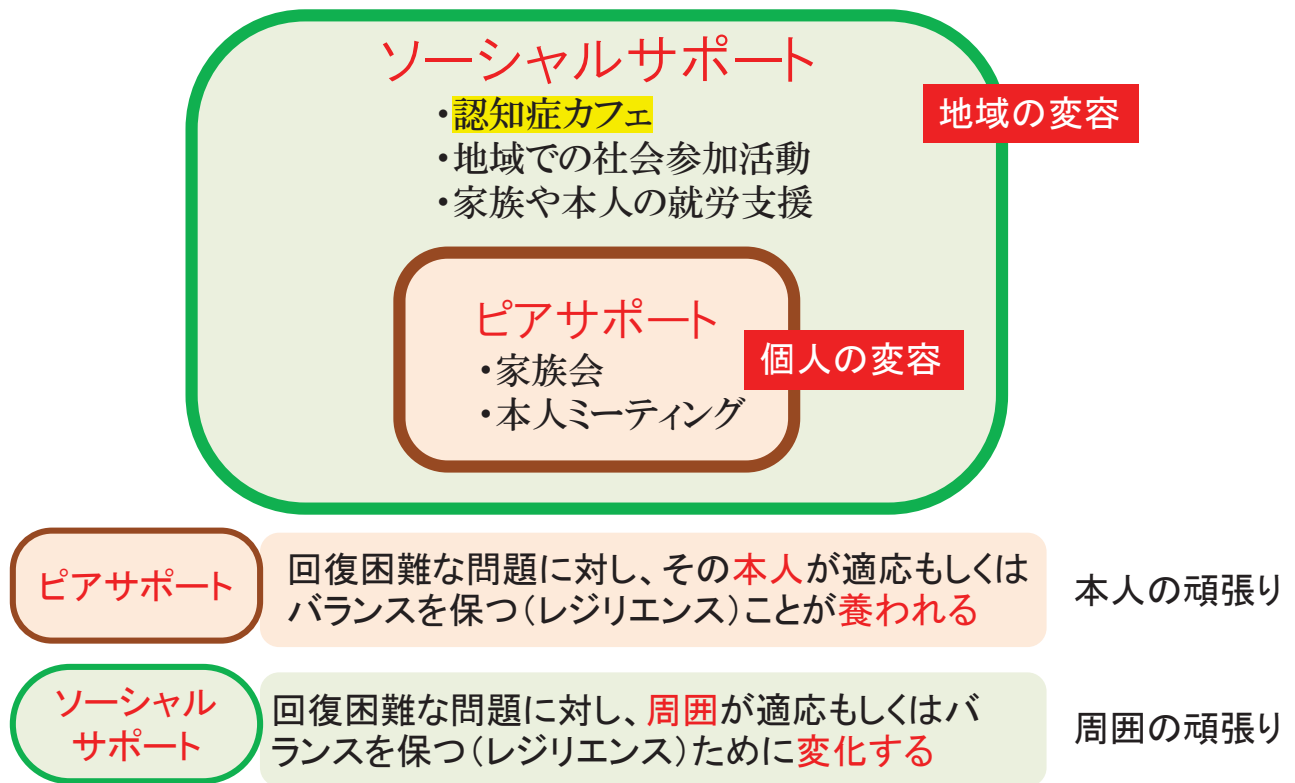
家族は、目の前にいる人は、体はそこに存在しているのに別の人になったように感じる。
しかし、周囲には理解されない。

【あいまいな喪失】

葛藤を内在化してしまう要因

周囲の理解、地域の理解、認知症という偏見
認知症によって生じる分断

認知症との和解のプロセスを育む



あいまいで複雑な日常の中で、あいまいで複雑な認知症

フオーマル教育の限界

フオーマル教育とノンフオーマル教育	
(定型的教育)	(準定型的教育) - (非定型的教育)
階層	仲間
個別修了証書	集団であること

(丸山秀樹,太田美幸：ノンフオーマル教育の可能性,新評論2013)

※場所、教え方、学び方、教師という概念が異なる

定型的教育

状況に埋め込まれた学習

教え込み型教育から「しみ込み型教育」 (渡部2008) へ

エキスパートモデルからの脱却

オランダ・イギリスの認知症カフェから学ぶ

●目的

認知症カフェの意義、そして運営実態

認知症の早期支援と認知症カフェの人材育成

●期間

2014年4月20日～5月15日まで

2015年4月20日～5月15日まで

2016年4月18日～5月10日まで

2017年4月21日～5月9日まで 8月10日～8月20日

2018年4月20日～5月10日まで

2019年4月24日～5月9日まで



ピアサポートの場

同じような、立場や境遇を共にする人たちの支え合い

＝同じ立場や課題を経験してきたことを活かして仲間として支える活動

診断されたご本人の、
その不安を一緒に乗り越えられたら・・・

おれんじドア

～ご本人のためのもの忘れ総合相談窓口～

認知症の診断を受けて、これから、どうなるだろうと不安で仕方がなかったとき、私を前向きにさせてくれたのは、私より先に診断を受け、その不安を乗り越えてきた認知症当事者の方々との出合いでした。この「おれんじドア」には、もの忘れなどで不安を抱える方や認知症と診断されたご本人に、ぜひ足を運んでいただきたいと思っています。 《おれんじドア実行委員会代表 丹野 智文》

日時 原則として第4土曜の14時～16時
※当日は定休となる日もありますが、手配ご連絡ください。

平成29年 4月22日(第4土曜) 14時～16時
5月27日(第4土曜) 14時～16時
6月24日(第4土曜) 14時～16時
7月22日(第4土曜) 14時～16時
8月26日(第4土曜) 14時～16時
9月23日(第4土曜) 14時～16時

会場 東北福祉大学
ステーションキャンパス3F
「ステーションカフェ」

〒981-8523 宮城県仙台市青葉区国府1丁目19番1号
東北福祉大学。駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

【お問い合わせ先】 070-5477-0718 (月～金 10時～15時)
orange.doorsendai@gmail.com

【主催】 おれんじドア実行委員会 代表 丹野 智文

【後援】 宮城の認知症をともに考える会 (宮城 宮城の認知症ケアを考える会)
認知症の人と家族の会宮城県支部
認知症介護研究研究センター 仙台 東北福祉大学
仙台市 宮城県
※後援予定 河北新報社 朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞社

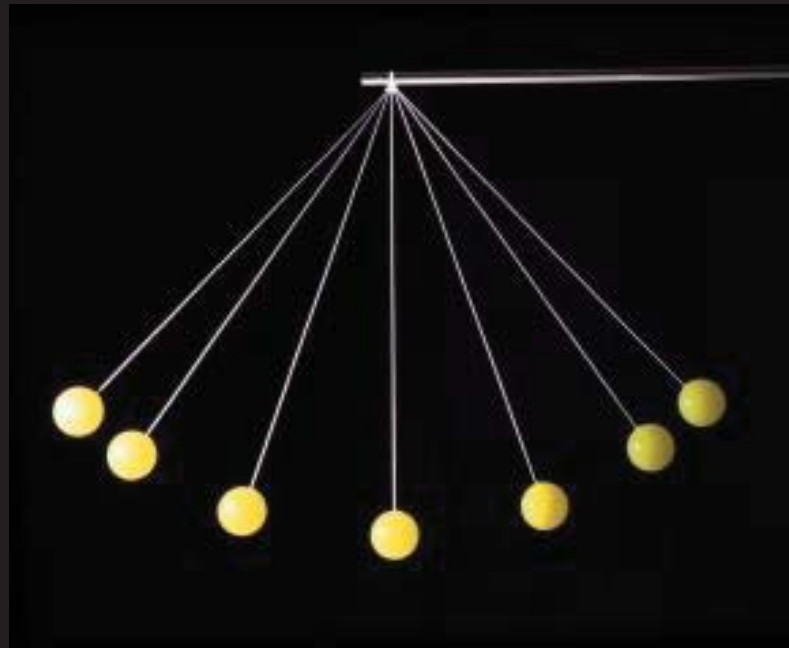
本人ミーティング および本人の相談窓口

専門職、当事者ではない者としての葛藤

12/25

家族支援か本人支援か？

ご家族の声



ご本人の声

分断から和解そして調和へ

家族関係のがもたらす課題と一体的支援

- ① 診断後「相談先なし」の家族介護者(n=1776) **34%**
- ② 電話相談の内容「人間関係」という回答相談時間は最長であった **23.1%**
- ③ 養護者における高齢者虐待の発生要因「被虐待者とのそれまでの人間関係」 **44%**
- ③ 養護者の同別居の状況「虐待者とのみ同居」 **50.5%**

目指したいこと、解決したいこと

「どのように関わっていけばいいのかわからない」

「診断後、家族関係に悩んでいる」

「先が見えない」

いつまでも、自宅でこの地域で家族と
穏やかに暮らし続けたいを支えるプログラム

～認知症とともに生きるレジリエンスを高める～

①現状

認知症の本人と家族の支援はこれまで別々に行われていました。
「出会い」によって、家族関係の維持や調整を目指しています。



新たな展開

家族をひとつの単位とした支援

一体的支援プログラム

他の家族との「出会い」による自然な学び



大切な2つの姿勢

①無知の姿勢（家族と本人の声に身をゆだねる時間をつくる）

「自分のことは自分が一番わかりにくい」

「もし、自分が同じ状況に遭遇したら同様に戸惑い困難に陥るだろう」

終結（回復）を目指すことがすべてではない。

②2つの権威を意識する（自己決定の雰囲気づくり）

「専門家の権威化」（正しくなくとも拠り所が大切）

「経験の権威化」（先行事例の経験が孤立化させてしまう）

向谷地生良「技法以前—べてるの家のつくりかた」医学書院2009

どのような方法でこうした場をつくれればいいのか…

3. 本人と家族の一体的支援プログラム

①一体的支援プログラムの背景

- 認知症の本人、家族介護者それぞれ個別に支援が行われてきた。
- 家族関係へのアプローチは十分ではなく、家族をユニットとした一体的な支援プログラムが求められている。

・診断直後から空白の期間へのアプローチ

・地域社会、家族、社会資源への再結合（ソーシャルサポート）

- オランダを中心に世界各国（イギリス、イタリア、ポーランド、アメリカetc..）に広がった「**ミーティングセンター・サポートプログラム**」は、在宅介護期間の延伸、介護費用の軽減、負担感やBPSDの軽減に有効であることが明らかになった。また、2021年から始まった新たな国家戦略「Dutch National Dementia Plan 2021-2030」でも在宅介護支援の柱として位置付けられた。（KPI:2030年までに在宅生活者の80%が利用：社会の役割の獲得）



箱モノではなく、プログラムです

2019年

- ・文献調査
- ・類似事例の分析
- ・日本版ミーティングセンター

2020年

- ・モデル事業の実施（5カ所）
- ・効果測定（非参加者比較）
- ・日本版ミーティングセンター手引書作成
- ※延参加者 563名

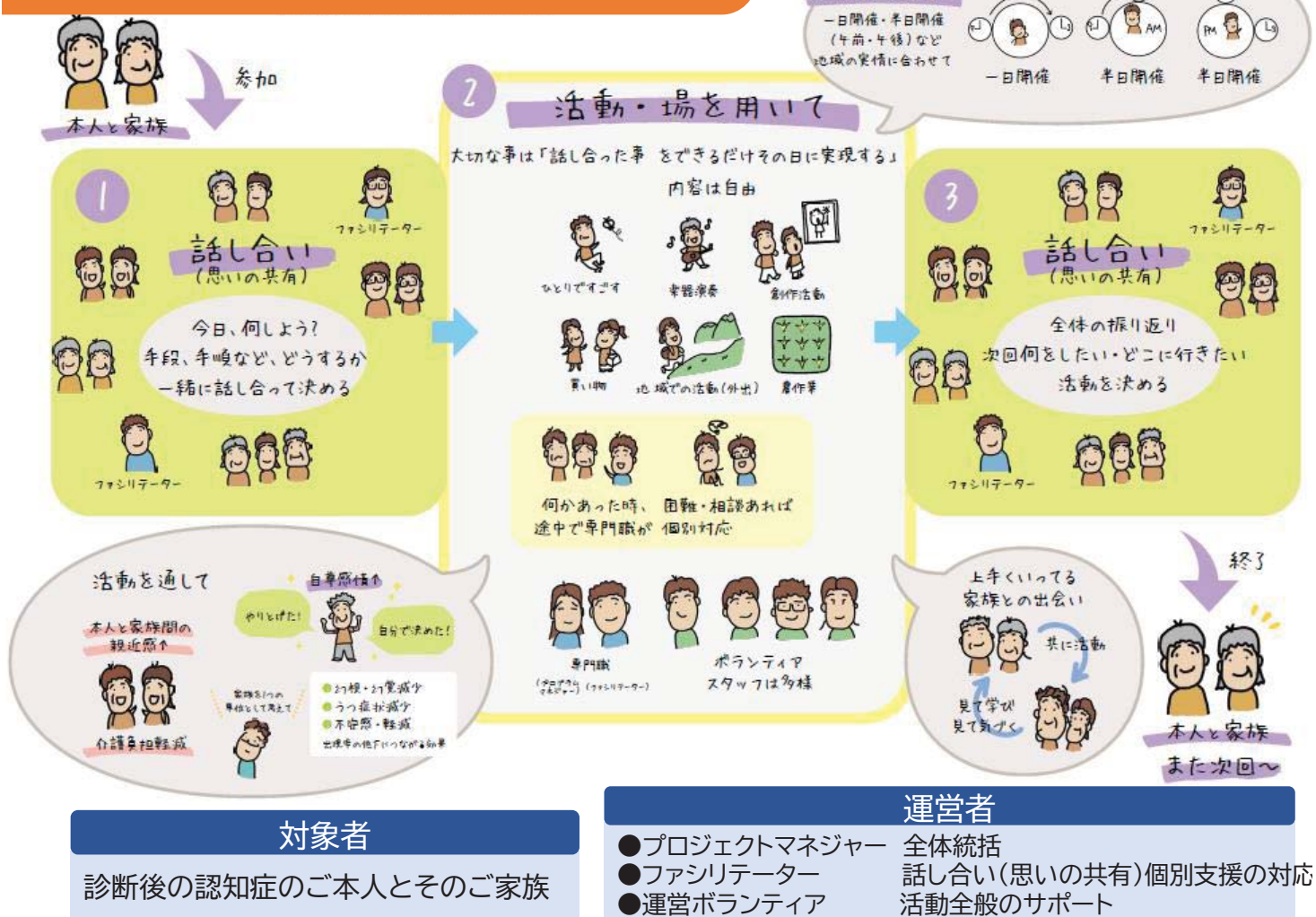


2021年

- ・モデル事業の実施（10カ所）
- ・効果測定
- ・手引書作成
- ・説明会の開催

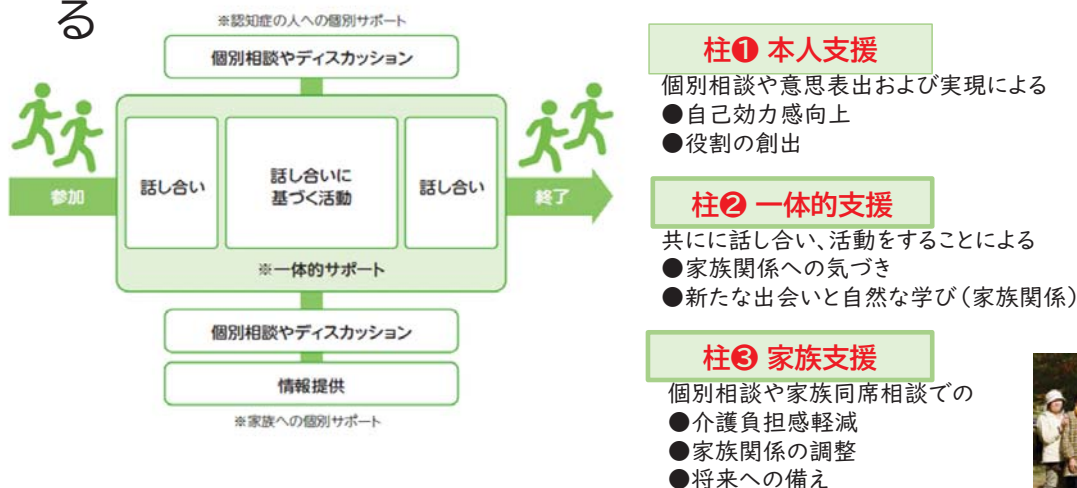


一体的支援プログラムの全体像



3つの柱を基盤にプログラムが展開される

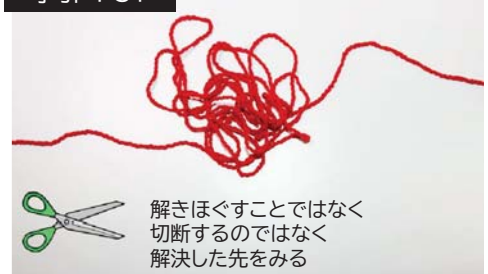
手引
P10,14



3つの哲学に基づく支援プログラム

手引 P31

- ①うまくいっていることは、直さない
- ②うまくいっただことは繰り返す
- ③うまくいかなない場合は違うことを
(ソリューション・フォーカスト・アプローチ)



かかわりの具体的な方法



これまでの家族療法『**悪循環を切断**』

- 関係の力動関係を明らかに対処能力を高める
- 専門家が構造化しコントロールする
- 家族間のルールの見直し
- ジェノグラムから原家族の分化を行う

問題の原因究明は必ずしも解決に結びつかない
解決に焦点を当てることが有益な方法である(Erickson,H.M)

全国10か所のモデル事業からの学び
ソリューション・フォーカスト・アプローチ的なかかわりと対話
『悪循環を切断』→『**好循環を促進**』 (Berg,I.K Dhezer,S)



三つの哲学

- ① うまくいっているのなら、直そうとしない
- ② うまくいったら、それを繰り返す
- ③ うまくいかなかったら、何か違うことを

- まずは、話を十分受容的に聞き共感する
- 今の問題が突然なくなったら、どうなると思いますか？(解決のイメージを作る)
- 悪かったことではなく、良かった例外に光を当てる
- すべての人は自分をよくする資源を持っていて、自分の人生の専門家である

語りを引き出す支援者の質問

【スターティング・クエスチョン】

ここでどんな話をしたいのかを、何が話したかったのかを聞く

【スケーリング・クエスチョン】

最も苦しかった時が「0」で解決が「10」だとしたら、今はどのような状態ですか？

【コーピング・クエスチョン】

今まで対処した方法で少しでも役立ったこと、上手くいったことを教えてください



あいまいさの中の耐性を高め、前に進むために役立つかわり

【リフレーミング】

A and **B** thinking (AでもありBでもあるという見方)

ここにはいないが、まだここにいる。

失われた希望や夢は悲しいが、新しい希望や夢がある

【不条理を受け入れる】

逆説的なことが起きやすい認知症ケア



【あいまいさを受け入れるための支えと思考】

二項対立的思考を捨てる（完全なものはない）

自分がコントロールすることをあきらめるが、コントロール

できることもあることを見つける

喪失には終結はなく、その必要もない（拠り所を見つける）

当事者同士のピアサポート

対話

家族会

本人ミーティング

地域を変えるソーシャルサポート

対話
学び

認知症カフェ

出会い
対話
活動

家族関係の調整や気づきのアプローチ

一体的支援プログラム

ポピュレーションアプローチ
(全体に向けて)

ハイリスクアプローチ
(リスクの高い方に向けて)

	市民集団啓発	一次予防的介入	二次予防的介入	三次予防的介入
運用のイメージ例	現在のところ認知症であるか介護が必要かどうかにかかわらず、すべての家族に予防的支援が行われます 事前の準備や啓発 認知症サポーター養成 市民講座や研修会 認知症カフェ	介入の必要があるかどうかにかかわらず、すべての家族に予防的支援が行われます 介護生活のはじまり～介護負担の増加 家族介護者教室 家族介護相談支援事業 (健康相談、介護者支援、介護スキル研修等) 認知症疾患医療センター (診断・治療支援)	関係性に悩み将来の不安が大きい家族に対象を絞って早期に支援が提供されます 介護生活への不応や将来の不安 一体的支援プログラム	介護生活中の身体的・精神的苦痛、虐待、BPSDの増加、急変時に対して行われます 在宅介護の限界 認知症疾患医療センター (BPSD専門対応)
				各種介護保険事業・初動支援を担うチーム

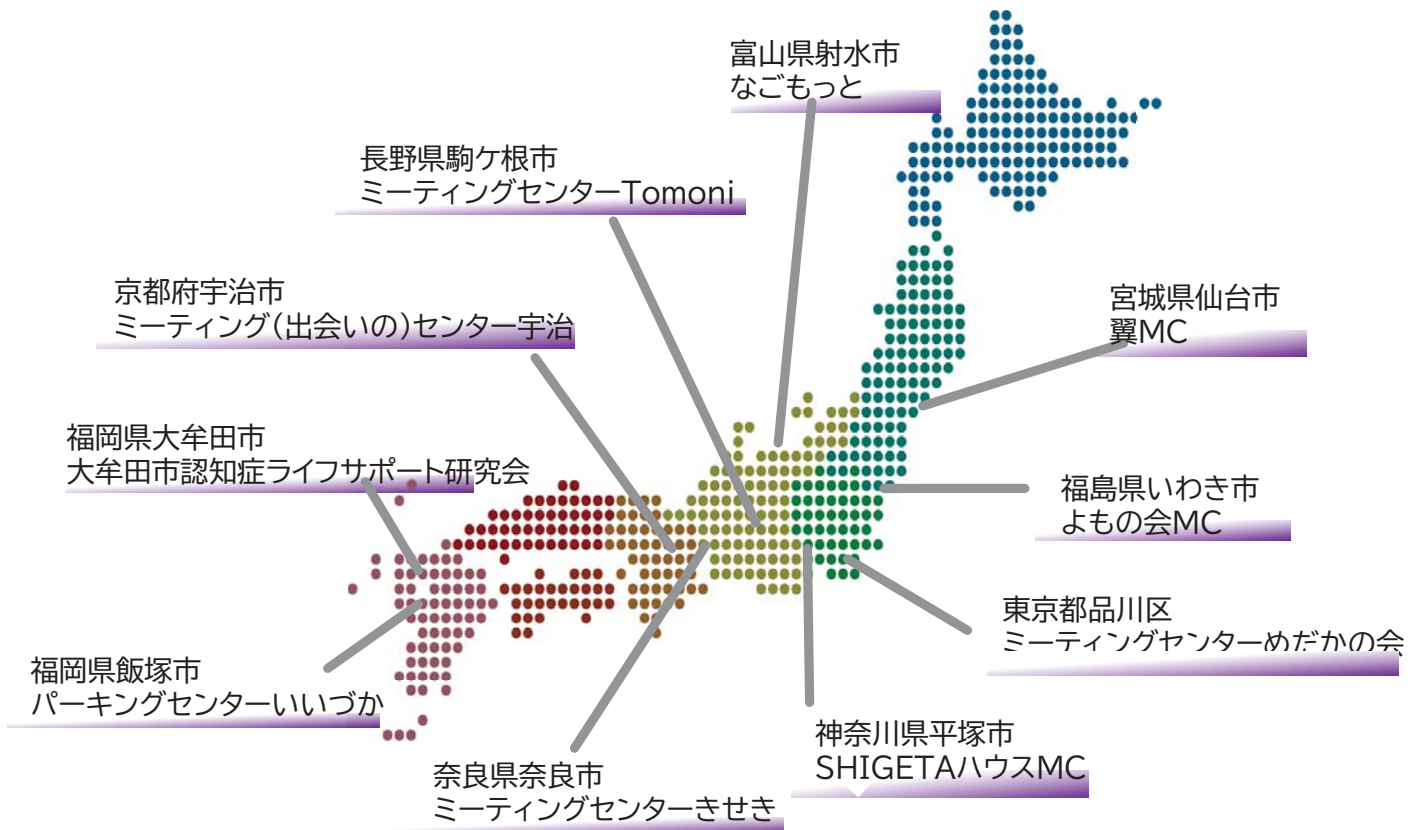
いくつか選択肢を作る(新たな社会資源)

施設

在宅

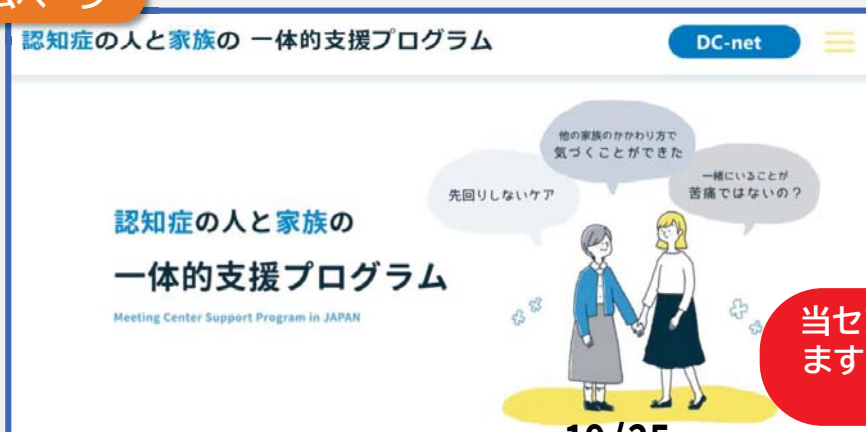
	一体的サポート	認知症カフェ	家族会	本人ミーティング
ねらい	診断後からの家族関係の構築	地域への認知症の啓発や寛容な社会づくり	家族の介護負担軽減、知識や情報共有	本人の知恵や知識、生活の工夫等の情報共有
対象者	家族 本人	認知症本人 家族 地域住民 専門職	家族	認知症本人
中心的方法	出会い 話し合いに基づく活動	ミニ講話 気楽な対話	話し合い 情報共有	話し合い 情報共有
時期	診断後から	診断前から	診断後から	診断後から
形式	クローズ	オープン	クローズ	クローズ

全国に広がる一体的支援プログラム



6月から、無料セミナーを開催します。
全国の事例を知り、開催と運営のノウハウを知ることができます。

ホームページ



当センターHP(DC-NET)から入れます。手引書およびHPが『無料ダウンロード』できます。

ありがとうございました

空白の期間を満たされた期間にするために

『教える、支援する』ではなく

⇒『解決に向けともに歩む中で気づく』

どこで

・これまでの活動を発展

・包括支援センターの包括的支援事業(社会保障充実分)

・認知症疾患医療センターの診断後支援

予算

R4より地域支援事業にて実施可能(市町村運営)
認知症地域支援推進員の企画調整による。

詳細は、令和3年3月28日付の老健局長通知をご覧ください

1 \



矢吹知之、ベレ・ミーセン「地域が変わる認知症カフェ企画・運営マニュアル」中央法規出版(2018)



ベレミーセン・矢吹知之共著
2022年4月発刊

【資料①】

第 10 回

福祉等関係専門職の生涯キャリア形成を目指す

TFU 実学臨床研究 セミナー

病院から地域に向けた多職種連携 -医療における多職種連携の課題-

2022 年

6月 23日 (木) 18 時30 分～20 時

方 法 Zoom によるオンライン開催 Zoom 情報は後日送付します

講 師 中村 令子 氏 (東北福祉大学健康科学部保健看護学科 教授)

コーディネータ 田中 尚 氏 (東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科教授)

菊地 知憲 氏 (宮城県医療ソーシャルワーカー協会／社会医療法人将道会総合南東北病院)

プログラム 情報提供 60 分，意見交換 20 分

参加方法 無料 Web(Peatix)申込み

<https://tfu-jitsugaku-seminar22.peatix.com/view>



◆ 第10回セミナー趣旨

地域包括システムの構築が進められる中、病院では多職種によるチーム医療の体制が整備されています。

早期退院のために質の高い医療を提供し、退院後の療養生活の支援と介護予防、再発予防を継続していくためには、病院内外の多職種との連携・協働が不可欠です。介護・福祉の専門職の皆様と接することも多い看護師が、病院の医療チームの一員として、地域のなかでもどのような役割を果たし、どのような課題を持っているのかをご紹介します。

◆ 講師プロフィール 中村 令子 (なかむら・れいこ)

看護師として脳神経外科、呼吸器内科等に勤務後、2012 年より東北福祉大学健康科学部保健看護学科教授。生活習慣病等の慢性疾患をもつ患者の看護、リハビリテーション看護の講義と病院実習を担当。脳卒中後遺症者の回復期のリハビリテーション看護と再発予防教育に関する研究を行っている。

◆ 企画・運営:TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

※裏面もご覧ください



生活困窮者支援を考える

日時 2022年7月28日(木) 18時30分～20時00分

場所 Zoom オンライン

講師 阿部 裕二 氏 (東北福祉大学総合福祉学部 教授)

◆ 2022年度のスケジュール【予定】

※テーマ・日程は変更される場合もございます

回	月	テーマ / 講師
8	終了	触法障害者の『入口支援』を巡る課題を考える
9	終了	認知症の人と家族の一体的支援
10	6/23 【次回】	病院から地域に向けた多職種連携 中村 令子氏 (東北福祉大学健康科学部 教授)
11	7/28	生活困窮者支援を考える 阿部 裕二 氏 (東北福祉大学総合福祉学部 教授)
12	8/20	孤立孤独対策を考える ★福祉系職能団体との企画 宮城県社会福祉士会より 宮城県精神保健福祉士協会より 宮城県医療ソーシャルワーカー協会より

◆【月例】TFU 実学臨床研究セミナー開設の趣旨

こんにち家族や地域社会が変化し多様化する中で、人々の幸せやより豊かな生活を願い、複雑化する支援ニーズに向き合う対人援助の専門職の皆さんは、絶えず新しい知識を身に付け、成長し、新しく生じる問題に対応する力量を身に付けることが求められています。

「行学一如」を建学の精神とする東北福祉大学(TFU)は、実践の質を継続して高め、問題解決力を身につけるための学びの機会を提供する取組み、月例「実学臨床研究セミナー」を開催することにいたしました。

福祉現場など実践の場のイマを見つめ、これから求められる対人専門職人材の育成や成長、キャリア形成を考える機会になれば幸いです。

◆ 企画・運営 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

【お問い合わせ】

東北福祉大学

TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会事務局 (実学臨床教育推進室内)

TEL 022-717-3359 FAX 022-301-1293

E-mail kenkyu-seminar@tfu.ac.jp ※平日 8:30～17:30 までお願いします(土日・祝日不在)

東北福祉大学大学院

合同(通学・通信)説明会



7月23日(土)

10:30～12:00 受付開始(9:30～)

(事前予約制)

●総合福祉学研究科
社会福祉学専攻(通学・通信)

●総合福祉学研究科 福祉心理学専攻(通学・通信)
※臨床心理学分野は通学のみ

●教育学研究科
教育学専攻(通学のみ)

- 場 所 本学仙台駅東口キャンパス 4階 仙台市宮城野区榴岡 2-5-26 TEL:022-766-8833
(JR仙台駅徒歩3分、地下鉄東西線宮城野通駅徒歩3分)
アクセスマップ <https://www.tfu.ac.jp/access/higashiguchicampus.html>
- 対 象 本学大学院への進学に関心のある方。 **学部生の方も、社会人の方も**、ご参加を歓迎しております。
- 内 容 ・総合福祉学研究科社会福祉学専攻、福祉心理学専攻／教育学研究科教育学専攻について
・大学院生との語らい・質疑応答 ※終了後、希望により、個別相談に応じます。
- 予約方法 メールでご予約下さい。 graduate@tfu-mail.tfu.ac.jp (7月21日(木)締切)
お名前、ご連絡先、ご希望の専攻、通学・通信のどちらを検討しているかをお知らせください。

お問い合わせ先
東北福祉大学 大学院事務室(ウェルコム 21 事務室)

TEL: 022-727-2288

23/25

【資料③】 2022年度 TFU実学臨床研究セミナー 実行委員名簿

No	名前	所属等
学外委員		
1	中里 仁 氏	社会福祉法人東北福祉会・せんだんの杜
2	設楽 順一 氏	社会福祉法人東北福祉会・せんだんの杜ものう
3	野田 毅 氏	社会福祉法人東北福祉会・本部事務局／せんだんの里
4	水澤 里志 氏	社会福祉法人東北福祉会・せんだんの里
5	青木 ルミ子 氏	社会福祉法人東北福祉会・せんだんの館
6	土井 勝幸 氏	医療法人社団東北福祉会・せんだんの丘
7	加藤 誠 氏	医療法人社団東北福祉会・せんだんの丘
8	大橋 雅啓 氏	全国・宮城県・福島県精神保健福祉士協会 / 東日本国際大学
9	菊地 知憲 氏	宮城県医療ソーシャルワーカー協会 / 総合南東北病院
10	小林 紀代 氏	宮城県社会福祉士会 / 多賀城市保健福祉部子育て支援課
11	菅原 幸枝 氏	宮城県精神保健福祉士協会 / 鹿島記念病院
12	阿部 一彦 氏	仙台市障害者福祉協会
学内委員		
13	阿部 哲也	総合福祉学部
14	阿部 利江	総合福祉学部
15	石附 敬	総合福祉学部
16	大島 巖	総合福祉学部
17	佐藤 俊人	総合福祉学部
18	佐藤 善久	健康科学部
19	清水 冬樹	総合福祉学部
20	高橋 誠一	総合マネジメント学部
21	竹之内 章代	総合福祉学部
22	田中 尚	総合福祉学部
23	中村 令子	健康科学部
24	芳賀 恭司	総合福祉学部
25	二渡 努	総合福祉学部
26	三浦 剛	総合福祉学部
27	吉田 孝	教務部 教務課
28	菅野 陽子	教務部 教務課
事務局		教務部 実学臨床教育推進室 [総務部 PR課／ICT支援室 広報・情報システム関連協力]

※2022/05/20現在

第9回 TFU 実学臨床研究セミナー 資料集

認知症の人と家族の一体的支援

発行日 2022 年 5 月 20 日

主 催 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会

編集・発行 TFU 実学臨床研究セミナー実行委員会事務局

TEL : 022-717-3359 FAX : 022-301-1293 E-mail kenkyu-seminar@tfu.ac.jp
